

自ら「行動する人」になろう

生徒の皆さん、おはようございます。校長の博田です。

連日、猛暑日が続いたこの夏休み期間でしたが、皆さんは元気に過ごしましたか？ まだしばらくの間、この暑さは続きますので、熱中症には十分気をつけて生活してください。また、このたびの熊本地震、そして千葉県で発生した豪雨災害により、尊い命を失われた方々に謹んで哀悼の意を表します。また、被災された皆様、今なお不安な日々を過ごされている方々に心よりお見舞い申し上げます。私たちも自然災害を自分事として受け止め、日頃から命を守る行動について考えていきましょう。

今日から第２学期が始まります。長い夏休みを終え、それぞれがさまざまな経験を積んでこの日を迎えたことと思います。部活動に全力で取り組んだ人、学習に励んだ人、家族との時間を大切にしたり、自分自身を見つめ直す時間を過ごした人もいたことでしょう。その一つ一つの経験は皆さんの成長の糧となっています。ぜひ自信をもって、新しい学期をスタートしてください。第２学期は文化祭をはじめ、多くの行事が予定されています。文化祭は、一人では成し遂げられないことを仲間と協力して実現する貴重な機会です。アイデアを出し合い、準備を重ね、ときには意見の違いを乗り越えながら、一つの目標に向かって進んでいきます。その過程で得られる達成感や仲間との絆は、皆さんの人生にとって大きな財産になるはずです。また、３年生にとっては進路実現に向けた大切な時期です。受験や就職試験を控え、不安や焦りを感じる人もいるかもしれません。しかし、未来は今日の積み重ねによってつくられます。目標に向かって努力し続けることを決してあきらめないでください。１・２年生も、自分の将来を見据えながら、今できることに真剣に取り組んでほしいと思います。

さて、第２学期のスタートにあたり、皆さんに一つの言葉を紹介します。アメリカの公民権運動の指導者であり、ノーベル平和賞も受賞したマーティン・ルーサー・キング・ジュニアは、次のような言葉を残しています。

"In the end, we will remember not the words of our enemies, but the silence of our friends."

（最後に私たちが記憶するのは、敵の言葉ではなく、友人たちの沈黙である）

この言葉は、人権や差別の問題について語られたものですが、学校生活にも深く通じるものがあります。この言葉は、差別や不正を前にしたとき、「自分には関係ない」と黙って見過ごしてしまうことの危険性を教えています。学校生活に置き換えるなら、誰かが傷ついているとき、いじめや仲間外れが起きているときに、見て見ぬふりをしないことの大切さを語っている言葉だと言えるでしょう。私は皆さんに、この言葉を第２学期の合言葉の一つにしてほしいと思います。いじめをする人にならないことはもちろん大切です。しかし、それだけでは十分ではありません。誰かが苦しんでいるときに声をかける人、間違

った言動に「それは違う」と言える人、先生や保護者に相談できる人になることが大切です。友人の沈黙ではなく、友人の勇気ある行動こそが、人を救い、学校をより良い場所にしていきます。いじめは加害者と被害者だけの問題ではありません。周囲で見ている人、知っている人がいるから起きるのです。そして、そのときに「自分には関係ない」「誰かが何とかするだろう」と沈黙してしまうことが、結果としていじめを見過ごすことにつながる場合があります。

本校が目指しているのは、誰もが安心して学び、安心して過ごせる学校です。その実現のためには、先生方だけの努力では十分ではありません。皆さん一人一人の力が必要です。友達が困っていたら声をかける。仲間外れになっている人がいたら輪の中に入るように声をかける。心ない言葉を耳にしたら、「それは違う」と伝える。あるいは自分が直接言えない場合には、先生や保護者など信頼できる大人に相談する。そのような小さな行動の積み重ねが、「いじめ」のない学校をつくります。「いじめ」は突然起こるものではありません。からかい、悪口、無視、SNSでの不用意な発言など、日常のささいな出来事から始まる場合があります。だからこそ、私たちは日頃から相手の気持ちを想像し、自分の言葉や行動を振り返ることが大切です。

私は皆さんに、「傍観者」ではなく「行動する人」になってほしいと思います。誰かが傷ついているときに手を差し伸べられる人、正しいことのために勇気を出せる人になってほしいのです。その勇気は決して特別なものではありません。皆さん一人一人が持っている優しさから生まれるものです。

文化祭や進路実現に向けて努力することも大切です。しかし、それ以上に大切なのは、仲間を大切にし、互いを認め合い、支え合うことです。学校の価値は建物の大きさや設備の充実ではなく、そこにいる人たちがどれだけ温かい関係を築いているかによって決まると私は考えています。この第2学期が、皆さん一人一人にとって大きく成長する学期になることを期待しています。そして、誰もが安心して笑顔で過ごせる学校を、皆さん自身の手でさらに良いものにしてってください。私たち教職員も、全力で皆さんを支えていきます。

以上で第2学期始業式での私の話を終わります。

令和8年9月1日
都立小川高等学校長 博田 英明